

**令和7年度**

**「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」**

**提案書**

**子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり**

**2026年3月27日**

**令和7年度「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」**

**委員一同**



1. はじめに	P 2
2. 「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要	P 3
3. 提案	P 9
4. 付録 委員アンケート結果（抜粋）	P 2 7

## 1 はじめに

私たちひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル参加者一同は、無作為抽出という縁によって集い、「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」をテーマに、東大阪市の未来について、世代や立場の垣根を越えて議論を重ねてきました。

議論を通じて、私たちはまず「夢」の定義を問い直しました。夢とは、職業だけに限定されるものではありません。「こんな自分でありたい」という状態や、日々の小さな目標、そして誰もが抱く「憧れ」も含みます。職業はそのための手段の一つに過ぎません（詳細は後述）。

そして、子どもや若者が未来を描くためには、その前提として「安心して過ごせる居場所（土台）」が不可欠であることに気がきました。その中でも家庭や学校で辛い思いをしている子どもにとって、夢を語る以前に、まずは「ここにいていいんだ」と思える安心感がなければ、未来を見ることはできません。だからこそ、困ったときに親や先生以外にも頼れる「地域の人とのナナメの関係」やお互いで見守り合う「おせっかい」の文化を取り戻すこと、さらには暗い夜道の解消等の身近なことの改善の積み重ねが、夢への第一歩となると確信しました。

また、子どもや若者が夢を見つけるためには、まわりの大人の姿が大きな手がかりとなります。子どもたちは大人の生き方や普段の姿勢から「大人になるとはどういうことか」「どんな未来が待っているのか」とイメージを広げていきます。大人が疲弊して諦めている姿を見せていては、子どもたちは大人になることに希望を持ってません。大人は子どもたちの好奇心の芽を摘まず、多様な生き方や価値観に触れる機会を提供すると同時に、大人自身が人生を楽しみ、学び、挑戦する背中を子どもたちに見せていく必要があります。

失敗を恐れず、何度でも再挑戦できる「トライ・アンド・チャレンジ（挑戦と経験）」の文化を、行政だけでなく、私たち市民一人ひとりが「自分ごと」として育んでいくことが重要だと考えます。

本提案書は、私たちが全4回の会議で語り合った未来への期待と、東大阪市への具体的な提案、そして私たち自身の決意を込めたものです。子どもの権利を尊重し、すべての市民が「このまちで大人になりたい」「このまちで暮らし続けたい」と思える、活気に満ちた東大阪市の実現に向け、行政とともに私たちも一歩を踏み出していきたいと思えます。

2026年3月27日 令和7年度ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル委員一同

## 2. 「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要

2025年10月から、「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」をテーマに、無作為抽出によって集められた住民による議論を行いました。

### 会議参加者

委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・無作為抽出住民 28 名*</li><li>*住民基本台帳より無作為に選ばれた 2,500 名の中から参加した方</li><li>・中高生委員 15 名</li><li>・昨年度より引き続きの参加委員 6 名</li></ul>
コーディネーター	A 班 <ul style="list-style-type: none"><li>・伊藤 伸 氏（構想日本 総括ディレクター）</li></ul> B 班 <ul style="list-style-type: none"><li>・林 恵子 氏（NPO 法人ブリッジフォースマイル 理事長）</li></ul>
ナビゲーター	【専門家の立場から議論にあたっての論点の提示や話題を提供する役割】 A 班 <ul style="list-style-type: none"><li>・定野 司 氏（文教大学客員教授、東京みらい中学校校長、構想日本 シニアフェロー、新しい自治体財政を考える研究会代表理事）</li></ul> B 班 <ul style="list-style-type: none"><li>・むんちゃん 氏（虐待サバイバー）</li></ul>

**委員名簿 ※掲載に同意をいただいた委員の氏名(音順・A班B班順)を掲載**

石川 智子	板橋 芽生	井上 巧翔	今江 友子	今村 寧々	上田 風登
上中 千晶	大川 桃花	大前 舞夏	岡橋 藍	菊田 了輔	北村 美咲希
木下 美和子	阪尾 仁	竹鼻 健太郎	露口 義則	土井 瑞葵	服部 颯太郎
藤島 芽生	森永 くるみ	矢原 眞吾	渡土 嵩都	砂金 ゆかり	柿原 利章
川隅 正尋	倉津 虎太郎	栗作 向日葵	河野 大樹	佐古 英樹	澤田 愛貴
高橋 奈央	立山 聖子	田中 登	仲田 彩愛	中谷 陽仁	橋本 良明
長谷川 ミミ	藤本 美悦	松井 咲太郎	松野 優寿稀	松本 由美子	森 有華
渡土 大翔					

**各回会議概要**

第1回	<p>【2025年10月5日(日)9:00~12:00】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催趣旨の説明、東大阪市の現状説明(市)</li> <li>・自分ごと化会議の説明(構想日本)</li> <li>・班に分かれて、自己紹介等</li> </ul>
第2回	<p>【2025年10月26日(日)9:00~12:00】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナビゲーター講演(A班)</li> <li>・班に分かれて「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」について協議</li> <li>・参加した委員によるまちづくりに対する改善提案シートの記入等</li> </ul>
第3回	<p>【2025年11月24日(月)9:00~12:00】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナビゲーター講演(B班)</li> <li>・班に分かれて「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」について協議</li> <li>・参加した委員によるまちづくりに対する改善提案シートの記入等</li> </ul>
第4回	<p>【2025年12月21日(日)9:00~12:00】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案書(案)について協議</li> <li>・参加した委員による提案書(案)に対する意見提出シートの記入等</li> <li>・地方創生ラウンドテーブルに参加した感想の共有等</li> </ul>

# そもそも「夢」って何？

今年度のテーマは「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」。そもそも「夢」とはいったい何かが、おぼろげでもわかっているほうが良いと考え、ラウンドテーブルでも議論されました。

「夢」とは、「やってみたい」「こうなっていたらいいな」といった、自分の素直な気持ちを出発点に、将来の暮らし方や生き方を思い描くことだと考えます。夢は、決して大きな目標や特定の職業に限られるものではなく、「おいしいものを食べに行く予定」のような身近な楽しみから、将来の姿まで、実現したときに自分が幸せだと感じられる状態を、幅広く「夢」だと、この会議では捉えました。

議論を通じて共有されたのは、夢とは「こんな自分でありたい」「こんな毎日を送りたい」という人生の方向性であり、職業はその方向性を実現し、自分自身や周囲を幸せにするための一つの手段である、という考え方です。夢を早い段階で具体的に絞り込みすぎると、現実とのギャップに直面したときに、その夢がかえって自分の選択肢と可能性を狭めてしまいかねません。絞り込めなくても、「人を笑顔にしたい」といった漠然とした思い自体が、立派な夢なのだと考えるようになりました。

夢は誰かに与えられたり、押し付けられたりするものではなく、本人が主体的に考え、成長や環境の変化に応じて途中で変わってもよいもの。だからこそ、東大阪市が掲げる「子ども・若者が夢を叶えられるまち」とは、個々の置かれた状況や経済的環境、夢の大きさや形にかかわらず、地域全体が一人ひとりの「思い」を否定せずに受け止め、見守り、応援できるまちのことを指すと考えています。

失敗を恐れず挑戦し、たとえ立ち止まることがあっても、何度でもやり直すことができる。そうした温かく、包容力のある環境を地域全体で育てていくことこそが、東大阪市のめざす姿ではないでしょうか。

# 会議風景



## - A 班ナビゲーター定野 司 氏からの話題提供 -

定野氏からは、元教育長および現東京みらい中学校の校長としての経験を踏まえ、子どもが大人になりたいと思える社会をどう作るかについて話題提供がありました。

・不登校は子ども自身の問題ではなく、「学校側が子どもに選ばれなくなった結果」である。現在校長を務める東京みらい中学校では、下駄箱や定期テストをなくし、始業時間を遅くするなど、学びの方法について根本から考え直し、学びの機会を確保しつつも、子どもが「通いやすい・選べる」学校づくりを実践している。

・子どもや若者は社会と共生しながら成長する。子どもは学びの期間を経て大人になる。大人はつい口を出したくなるが、子どもの主体性や好奇心の芽をつまないために、子どもといかに向き合うかについて考えることが、大人の果たすべき役割である。

・子ども・若者が夢を実現できる東大阪になるためには、以下の3つの要素（トライ&チャレンジ）が必要となるのではないだろうか。

1. 多様な体験（夢の種を育てる）：学校や企業等が連携して新しい学びの仕組みづくりを行う。また、失敗を恐れずに挑戦する過程を評価する。
2. 共創の場（夢を形にする）：世代を超えて集まり、アイデアを出し合える場をつくる。
3. 挑戦を許容する文化：他人と比べるのではなく、過去の自分と比べて成長を実感できるマインドセットを育む。壁（試練）は乗り越えられる人にしかやってこない。

## - B 班ナビゲーターむんちゃん 氏からの話題提供 -

むんちゃん氏からは、ご自身の幼少期に虐待を受けながらもその環境を生き抜いた経験を踏まえ、虐待や孤独など困難な状況にある子どもたちを地域でどう支えていくかについて話題提供がありました。

・家庭に居場所がない子どもは、そもそも「助けて」と言った経験がなく、助けを求めるという発想自体を持たない場合がある。大人の「当たり前」を押し付けず、子どもが親を介さずに SOS を出せる大人がいる具体的な場所（例えば子ども食堂など地域で子どもが集う居場所）を、子ども自身に分かりやすく示さなければならない。

・虐待家庭の子どもにとっての優先順位は、遊びや勉強ではなく「今日殴られないか」「ご飯を食べられるか」「怒鳴られずに眠れるか」という生存に関わること。安心する場所があって初めて夢を持てる。生き延びるのに精一杯で、明日生きているかどうかもわからないのに、未来のことは描けない。

・子どもたちが夢を持つためには、まず安心・安全が守られていない過酷な環境にいる子どもたちを「マイナスの状態からゼロに引き上げる」ための支援が不可欠である。

## ○コラム：会議から生まれた「夢への一步」

ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブルは単なる議論の場にとどまらず、対話を通じて参加者の心が動き、実際の行動へとつながるものが生まれました。その象徴的なエピソードの一部をご紹介します。

### コラム 1：「背中を押されて、夢への挑戦を決めた」

将来はお笑いの道へ進みたい。そんなひたむきな思いを持つ中学 3 年生の委員が、卒業後の進路として「お笑い芸人の養成校」を希望したとき、家族の間に葛藤が生まれました。これまで我が子の「やってみたい」という好奇心を誰よりも尊重し、応援し続けてきた母親にとっても、今回ばかりはすぐには賛成できない大きな決断だったからです。しかし、ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブルに参加し、地域の大人が真剣に子ども・若者の声に耳を傾ける場を共に過ごす中で、親子の心境に変化が訪れます。お互いに妥協せず、本音でとことんぶつかり合う時間を経て、母親の心の中に一つの答えが芽生えました。「大人が先回りして挑戦を止めてしまうことは、本当に子どものためになるのだろうか。たとえ将来どんな結果になろうとも、本気で夢に向かって挑んだその『過程』こそが、この子の人生の揺るぎない財産になるはずだ」と。子どもの意思を尊重し、その成長を信じて後押しすることこそが親としての喜びである。そう確信した母親は子どもにとっての理解者となり、最後まで心配し続けていた父親にその熱意を一緒に伝え、説得に成功しました。一人の子どもの純粋な夢が、対話を通じて大人の価値観を変え、家族の心を動かしこのエピソード。これこそまさに、私たちがめざす子どもの挑戦を受容し、後押しするまち」を体現した出来事と言えます。

### コラム 2：「諦めた夢が、形を変えて再び動き出した」

「やむを得ない持病により、幼い頃から憧れていた警察官への道を諦めざるを得なかった。」本会議の場で、ある大学生の委員がこぼした悩みです。目標を失い、次の一步をどう踏み出せばいいのかわからないという葛藤に対し、人生の先輩である 70 代の委員が語りかけました。「たとえ特定の『職業』には就けなくても、その道に携わることにはできる。例えば、消防士になれなかった人が、災害現場で命を救う『はしご車』を設計する仕事に就いたという話がある。職業はあくまで思いを叶えるための手段に過ぎない。ほんの少し角度を変えてみれば、君の願いを実現する選択肢はいくらでも見えてくるはずだ」と。「職業名」に縛られていた視点を解きほぐすこの言葉に、大学生の委員は「これまでは、夢を失った状況に甘えて立ち止まっていたのかもしれない。いただいた言葉を胸に、新たな夢を探していきたい」と、再び前を向く決意を語ってくれました。「子どもや若者がどうしようもない壁にぶつかったとき、そこから一步でも抜け出せるよう、地域みんながサポートの手を差し伸べられるまちでありたい。」年長者のそんな願いが込められたこの対話は、本会議が定義した『夢＝職業名ではなく、ありたい状態』という本質を、最も表した瞬間となりました。

### **3. 提案**

# 「子ども・若者が自由に夢を描き、地域全体でみんなの夢を応援するまち」をつくる。

## 【夢を見つける】

### 提案

1. 子ども・若者が多様な生き方の大人や職業と出会う「リアルな体験機会」を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる

## 【夢を守り育てる】

### 提案

2. 家や学校以外に、子ども・若者がホッとできる「居場所」やナナメの関係の「相談相手」をつくる

## 【夢を実現する（夢に向かって挑戦する）】

### 提案

3. スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子ども・若者の「やってみたい」を形にする

## 【夢を広げる】

### 提案

4. ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する

## 【夢を応援する】

### 提案

5. 大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と心と時間に余裕を持てるような環境づくりを進める

## 【夢を見守る】

### 提案

6. 地域全体で「おせっかい」を焼き合い、誰もが孤立せずに繋がり合える温かいコミュニティを構築する

## 【夢を持ち続けるための基盤づくり】

### 提案

7. 道路整備、交通安全対策、医療体制の充実や、インターネットや性のリテラシーを高める研修の実施など、安心して暮らせる生活基盤を整える

## 提案

1. 子ども・若者が多様な生き方の大人や職業と出会う「リアルな体験機会」を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる

子どもたちにとって、身近な大人（親や教師）以外の大人の生き方や職業を知る機会が増えるほど、将来の夢はより現実味を帯びて見えてくる。インターネットで得られる情報だけでなく、楽しそうに働く姿や、多様な価値観・キャリアを体現している人と実際に出会い、対話することで、子どもたちの視野を広げることができる。そのことは、「何になるか」という職業名を考えるだけでなく、「自分は何を大切にし、何をしたいか」という本質的な夢の描き方に気づくことにもなる。こうした職業体験や交流の場をつくるにあたっては、多くのモノづくり中小企業が集積する東大阪市の強みも活かしていく。

### 「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 自分の仕事や人生経験（成功や失敗の体験・趣味等）を、地域の子どもたちに語り、知見を広げるきっかけをつくる。
- ② 母校等で、後輩の子どもたちに自分の仕事の話をする。
- ③ 親自身が多様なことに興味を持って楽しむ姿や、自分の職場に子どもを連れて行き、働く姿を見せる。
- ④ 「仕事は大変だけど楽しいよ」とポジティブな面も話す。
- ⑤ 職場見学等の機会に、親が「一緒に見に行こう」と声をかける。
- ⑥ 職業の体験機会のボランティア活動を行う。

#### 地域

- ① いろんな職業や経験を持つ大人をゲストに呼んで、寺子屋（地域の居場所）等での交流会やトークイベントを開く。
- ② 定年退職した人等の特技・技能を地域づくりに還元し、活躍の場だけでなく世代間交流の機会をつくる。
- ③ 地域の人がどんな仕事をしているかについて紹介するポスター等の広報媒体をつくる。
- ④ 地元の企業や商店街が協力して、リアルな仕事を体験できる「職業体験フェス」を開く（学生だけでなく親子で参加できるようにする）。
- ⑤ 自然体験や農業体験等、体を使ったリアルなイベントを企画する。

#### 行政

- ① 市内の大学や企業と連携し、早い段階から多様な進路の選択肢を見ることが出来る機会を提供する。

- ② 他の自治体で実施されている職業体験の事例を調べて取り入れる。
- ③ 数日間の職場体験だけでなく、長期のインターンシップや多様な仕事を体験できるプログラムを学校に積極的に取り入れる（その際、良い面だけでなく、仕事の厳しさや大変さも見せて、就職後のギャップをなくす）。
- ④ 子どもたちが運営する「模擬都市」のようなイベントを行い、社会の仕組みを学ぶ場をつくる。
- ⑤ 多様な年齢の学生間での交流ができるよう、公立の中高一貫校をつくることを検討する（ただし、早くに進路を狭めることにならないよう配慮する）。
- ⑥ 小・中学生の段階から、企業と学校をつないで出前授業や工場見学をしやすいしたり、企業や大学と連携した取組を行う。
- ⑦ 海外留学やいろいろな進路の情報をまとめて、子どもや親に周知する。
- ⑧ お金がなくて体験できないことがないよう、習い事等に使えるクーポンを配る。職業を知るために必要な資金を補助することも検討する。

## その他の 主体

- ① 会社や事業所で、積極的に職場見学を受け入れる。
- ② 企業が「お仕事体験」を紹介できるサイトを作ったり、フェスを企画したりする。
- ③ 企業が TikTok やショート動画等で仕事の魅力を発信し、再生数ランキング等で企業の参加意欲を高める。
- ④ 年齢層に応じた情報提供を行う（例えば、小学生には「わくわく」や「夢を持たせる」を重視した体験を、高校生以上にはエビデンスに基づいた現実的な情報やギャップ解消のための情報の提供等）。

## 2. 家や学校以外に、子どもがホッとできる「居場所」やナナメの関係の「相談相手」をつくる

虐待や貧困等の家庭環境や、学校という既存の枠組みが合わず、学びの場として学校を「選べなくなった」子どもが増えている。一人ひとりの段階や状況に合わせ、家や学校以外に安心して過ごせる居場所（サードプレイス）の確保が急務である。「助けて」と言葉にしたことのない子どもは、そもそも助けを求める発想が持てないことがある。そのため、親や先生等の縦の関係でも、友達等の横の関係でもない、地域の人との「ナナメの関係」を築くことが鍵となる。本音を話せる大人との関わりや、自分らしくいられる場所があることで、安心して将来を思い描くことができ、また、子どもたちが自身の夢を守り育てることに繋がる。

### 「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 家やお店の空きスペースを、子どもが勉強したり休憩したりできる場所として貸し出す。
- ② 自分の家を近所の子が遊びに来てよい場所にする。
- ③ 子どもが相談しやすい環境をつくる（適度な距離感を保ちつつ、子どもと接する）。
- ④ 昔あった「秘密基地」のような、子どもたちだけの居場所の必要性について考えてみる。
- ⑤ 子どもから相談されるのを待つだけでなく、大人から「どうしたの？」と寄り添っていく。
- ⑥ 不登校の理由などをあれこれ聞かず、まずは「そうなんだ」とありのままを受け止める。
- ⑦ 子どものことについて学校との連絡を密にする。
- ⑧ 「ナナメの関係」を難しく考えず、まずはあいさつや軽い会話から始める等といった、ハードルの低い関わり方をする。
- ⑨ SNS等を使って、「ここに相談してもいいんだ」と思えるような情報を子どもたちに届ける。

#### 地域

- ① 教室や学習支援の場のほか、子ども食堂や塾も、学校以外で安心して過ごせる『第3の居場所』として機能するような環境づくりを進める（子ども食堂で、食事だけでなく悩み相談もできるようにする）。

- ② 公民館や集会所を開放して、放課後の自習スペースにしたり、学校に行くことができない子の居場所にしたりする。
- ③ 親世代の意識や考え方を共有し、地域としての子育てに対する共通認識をつくる場を設ける。

## 行政

- ① スクールカウンセラー等の専門家や相談員、サポーターを学校に常駐させ、親や先生を通さずにいつでも SOS を出せるようにする（現在は月に 2 回程度）。併せて保護者の支援も行う。
- ② スクールカウンセラー等との対面だけでなく、夜間でも顔を合わせずに相談できる LINE 相談等のツールを導入する。
- ③ 行政や学校にて、虐待を経験した人の声を聴く機会を設け、社会全体で考える。
- ④ 子どもの居場所づくりをしている団体に、場所を貸したり活動費を補助したりする。
- ⑤ 図書館や公民館等、子どもが無料で使える自習スペースを増やす。
- ⑥ 「助けて」と言える連絡先（SNS 相談等）を、学校のトイレやタブレット内等の、子どもの目に留まる場所に掲示する。
- ⑦ 学校の中に安心して過ごせる別室を用意したりする（学校の様子を知るため、定期的な見学や訪問を行う）。
- ⑧ 虐待等が心配される家庭には、子どもだけでなく親への支援（生活支援やカウンセリング）も行い、根本から解決する。
- ⑨ 学びの多様化学校（不登校特例校）の設置を検討する（従来の学校以外の選択肢が増えることが、子どもの可能性を広げる上で重要）。
- ⑩ 市役所前広場や図書館等を、かつての商業施設のように子どもだけでなく、市民全員、障害の有無や、老若男女問わず集える賑やかな場所へ。

## その他の

### 主体

- ① コンビニ等を「子ども 110 番の家」としてもっと活用し、店員が適切に対応できるようにする。
- ② 子どもが親に気づかれずに SOS を発信できるような SOS アプリを企業が開発する。
- ③ 学校に通う意欲のある生徒のやる気を削がない環境づくりをする。
- ④ 企業や NPO も、親子で会話できる場所や機会を提供する。
- ⑤ 飲食店等が協力し、子どもが安価で利用できるメニューや居場所を提供する。

### 3. スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子ども・若者の「やってみたい」を形にする

子どもや若者が夢を持っていても、具体的に何をすれば良いかわからないことが多い。プロからのフィードバックを得られる機会や、賞金がもらえるような本格的なアイデアコンテスト、さらには実際に仕事を受注するといった体験をすることで、子どもや若者はどうすれば自分のやりたいこと、なりたい姿に向かうことができるのかを考え、夢の実現への一歩を踏み出すことができる。実際に何かを作り上げ、それが評価される経験こそが、失敗を恐れず挑戦する意欲や夢に向かうための自信につながる。

#### 「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

##### 私たち住民

- ① 子どもたちの「なりたい」という夢に対して、ビジネスコンテストや大会への参加を勧めて背中を押す。
- ② 自分の特技を活かして、子どもたちに「プロの技」を見せたりアドバイスしたりする。
- ③ 自分で発表の場や社会のニーズを探る姿勢を持つ。
- ④ 方向性を示すだけでなく、あえて失敗させる経験も大切にする。

##### 地域

- ① 「プチお仕事依頼」（子どもたちが企画・プレゼンをして、大人が実現をサポートするような場）の仕組みをつくる。
- ② 掲示板や回覧板を使って、子ども向けのコンテスト情報等を積極的に知らせる。
- ③ 地域のお祭りの司会を子どもに任せるなど、身近な活躍の場をつくる。
- ④ 子どものアイデアを実現するために、地域の大人と一緒に考えて、協力する。

##### 行政

- ① 小説、デザイン、動画、ビジネスプラン等、いろんな分野の「賞」を設けたり「プレゼン大会」を開いたりする（運営費は、クラウドファンディングで集める仕組みを検討する）。
- ② 子どもたちの作品やプレゼンに対して、プロの審査員や企業からアドバイスがもらえる仕組みをつくる。
- ③ 企業と協力して、デザインや企画等の実際の仕事の一部を子どもに受注し体験できる公募の仕組みをつくる。

- ④ ドリーム 21 等で、中高生も楽しめるイベントをもっと開催する。
- ⑤ 学生の市内バス・電車の無料化や施設入場料の引き下げ等によって、学生が色々な場所やイベントに行きやすくする。
- ⑥ 新たな事業や予算によるものだけでなく、既存事業（デザイン公募や広報活動等）において子どもに携わってもらったり、既存施設にて子どもの作品展示や発表の場をつくる。
- ⑦ 体験格差をなくすため、文化創造館をもっと活用する等で、学校単位での芸術鑑賞やイベント参加を推進する。
- ⑧ 成功だけでなく「失敗コンテスト」のようにプロセスや失敗経験を共有する場をつくる。
- ⑨ 子どもたちが何を求めているかを調査したうえで、必要な体験や活動に対して補助を行う。

## その他の 主体

- ① 企業において、子どもたちの斬新なアイデアを商品や広告に取り入れるコンテストを行い、賞品や活動費を提供する。
- ② 子どもたちのアイデアを、企業が実際に商品化・実現化する仕組みをつくる。
- ③ 市内企業の中で、有名なプロだけに限らず、身近ですごい技を持つ人が、子どもたちにそれを披露することで、自分たちもやりたいと思える機会をつくる。

### <その他の意見>

- 学校は部活動の先生を少しでも知識がある人を顧問として選任するなどの配慮をすることにより、さらなる知識や経験を得られる場となる。

## 4. ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する

東大阪市に住んでいる多くの外国人と、生活者として一緒に暮らすことは、多様な文化や価値観に触れる機会が増え、子どもの視野を広げて夢の可能性を広げる。中高生からは「もっと海外の文化に触れたい」「日本にいながら国際的な交流をしたい」という前向きな意見が出る一方で、ゴミ出しや騒音等の生活マナーの面で摩擦が起きている現状もある。お互いの文化を尊重しつつ、日本のルールやマナーもしっかりと伝えることで、言語や制度の壁を越え、すべての住民が快適に暮らせる多文化共生社会をめざす。

### 「提案 4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 簡単な日本語やジェスチャーを使って、外国人も積極的にあいさつや声かけをする。
- ② 差別や偏見を持たず、「一緒に暮らす仲間」として受け入れるマインドを持ち、困っている外国人がいれば助ける。
- ③ ゴミ出しのルールやマナーを、近所の外国人に優しく教えたり一緒にやってみる。そのうえで、ときには毅然とした姿勢で向き合う。
- ④ 外国人に教える前に、まず日本人自身がマナーを守る。

#### 地域

- ① 地域イベントに外国人も招待し、日本のお祭りや地域のルールを楽しく体験してもらう。
- ② 自治会等で、ゴミや騒音といったトラブルになりがちなことについて、「多文化交流会」や「地域コミュニティ会」等の外国人住民も交えて話し合う場を設ける。日本の文化・習慣を教える機会をつくる。
- ③ 外国人は日本文化を「教わる側」になるだけでなく、「教える側」になり、彼らの文化や誇りを日本人が学ぶ機会をつくる。文化や習慣を紹介し合う双方向の文化交流（ミニ万博のようなイベント等）を推進し、相互理解を深める。
- ④ 技能実習生を受け入れている企業と連携し、外国人に地域コミュニティへの参加を促す。
- ⑤ 外国人の子どもが環境に適応できていても親が孤立しないよう（漢字が読めない等）、やさしい日本語や多言語での情報提供を強化する。

## 行政

- ① 新しい制度をつくるだけでなく、外国人住民に向けて、日本の生活習慣やマナー等を分かりやすく伝える研修やガイダンスを行う。
- ② ゴミ出しルール等の情報を多言語にしたり、「やさしい日本語」を使った交流イベントを支援したりする。
- ③ 国際交流フェスティバルの会場を増やすなど、市民が気軽に外国文化に触れられる機会を増やす。
- ④ 留学制度の充実を図り、海外の情報を中高生に届きやすくする。
- ⑤ 日本語が苦手な人のために、多言語に対応する通訳・翻訳ツールをもっと使えるようにする。
- ⑥ 学校の授業にて、異文化理解を深めたり、実際に交流したりする機会をつくる。

## その他の 主体

- ① 技能実習生等を受け入れる企業は、仕事だけでなく日本の習慣やマナーについても教える時間をとる。

## 5. 大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と、心と時間に余裕を持てるような環境づくりを進める

子どもは自分の考えや気持ちを大人に聴いてもらうことで安心感が生まれ、主体性を持ったまま挑戦することができる。「大人が子どもの夢を潰している」「親が価値観を押し付けている」ということのないようにしなければいけない。実現のためには、大人の意識改革が必要である。また、親自身が生活に追われて心に余裕がないことが、子どもに向き合うことができない要因の一つにもなっている。親を責めるのではなく、親も地域や行政に頼れる環境をつくり、大人自身が学び、変わっていくことが必要である。

### 「提案 5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① こうあるべきという思い込みを捨て、子どもの個性を認めるようにする。
- ② 子育て中の親に「頑張っているね」と声をかけたり見守ったりして、親を孤立させない。
- ③ 子どもの話を否定せずに聴く姿勢を持ち、自分自身の心にも余裕を持つ。
- ④ 親は自分の子どもの夢をまずは応援する。そして親自身も、自分はどう生きたいかを考える。
- ⑤ 子どもの権利や心理について学び、子どもを一人の人間として尊重し、対等な目線で話を聴く。
- ⑥ 家ではスマホを見ない時間をつくり、家族の会話を大切にする。
- ⑦ 子どもが一瞬見せる興味を見逃さず、大人がその後のチャンスを提示する。

#### 地域

- ① 子育て世代とお年寄りが交流できるサロンをつくり、悩み相談や知恵の共有をする。
- ② PTA や子ども会を、義務ではなく「親同士が楽しくつながって助け合える場」に変えていく（家庭と学校以外で、市内に住む親子が集まって親の考えや悩みを共有できるような大人と子どもが意見交換する場を設ける）。
- ③ ママ友・パパ友の輪を広げ、緊急時に子どもを預け合える関係をつくる（幼稚園や学校の枠を超えて、いろんな世代の親同士が関われる機会をつくる）。

## 行政

- ① 結婚から子育てまでずっと支援を行い、産後ケアや在宅での見守りサポートを使いやすくすることで育児や家事、心理的な負担の軽減を図る。
- ② 保護者向けに「子どもの話の聴き方」や「イライラとの付き合い方（アンガーマネジメント）」講座を開く。
- ③ 一時預かりやショートステイを充実させ、親がひと休みできる時間をつくる（親が子育てを休んでもよいという雰囲気づくりも行う）。
- ④ イベントの事前予約をなくして当日参加も可能となるよう運営主体に働きかけ、小さな子どもがいても参加しやすくする。
- ⑤ 「子育て世帯が働きやすい職場環境」を企業に向けて周知することで、親が働きすぎて余裕をなくさないようにする。
- ⑥ 「子ども議会」やアンケートを行って、子どもたちの意見を定期的に聴く。
- ⑦ 陣痛タクシー（事前に登録し陣痛時に病院まで送るサービス）の導入や費用補助等、具体的な移動支援を行う。
- ⑧ 必要な支援が届くよう、申請主義ではなく行政から対象者に情報を届ける仕組み（プッシュ型）にする。

## その他の

### 主体

- ① 事業者は、子育て中の社員が休みやすく、早く帰れるように働き方を見直し、子どもと向き合う時間を確保させる。
- ② 有志チームをつくり、子どもの話を聴くスキルや子どもの人権について学ぶ勉強会を大人向けに開催する。

## 6. 地域全体で「おせっかい」を焼き合い、誰もが孤立せずに繋がり合える 温かいコミュニティを構築する

「知らない人について行ってはいけない」という防犯意識の高まりにより、地域でのあいさつが減少し、関係性が希薄になっている。しかし、顔が見えてあいさつできる関係こそが最大の防犯であり、子どもの安全・安心につながる。さらに、地域の一員として認められる経験や温かい地域コミュニティの支えは、自分自身の将来を肯定的に捉える力となる。かつての「おせっかい」の良い部分を復活させて、誰もが地域の一員として役割を持ち助け合える、温かいまちをめざす。

### 「提案6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 近所の人にあいさつし、災害時等に声をかけ合えるようにしておく。
- ② 子どもや近所の人に対して、大人から積極的に「おはよう」「おかえり」と声をかける。「近所の知らない大人」から「顔なじみ」になって子どもが安心できる雰囲気をつくる。
- ③ ゴミ出しや回覧板を渡す時など、ちょっとした機会におしゃべりをする。
- ④ 自分の子だけでなく、その友達や近所の子にも関心を持ち、変化に気づけるようにする。
- ⑤ キャンプや公園での遊びなど、スマホがなくても楽しめる体験機会を積極的に増やす。
- ⑥ 親同士のつながりを大切に、地域の情報を交換する。

#### 地域

- ① 人と人をつなぐ「地域のおせっかいさん」を育てて、交流の橋渡しをしてもらう。
- ② 地域の祭りやイベントを、誰でも参加しやすい形（安い、車椅子でも行ける、言葉が分からなくてもOK等）で行う。
- ③ 世代を超えておしゃべりする会（今回のラウンドテーブルのようなもの）を、いろんなテーマで気軽に参加できるものとして、頻繁に開催する。
- ④ 町内会や自治会の役員の仕事を減らし、若者や一人暮らし、外国人も参加しやすい柔軟な組織にする。
- ⑤ 地域の高齢者にも、公園の手入れやボランティアをお願いする。
- ⑥ あいさつ運動や、夜遅く出歩いている子への声かけを積極的に行う。
- ⑦ あいさつをしたらシールがもらえるなど、子どもがゲーム感覚で楽しめる仕組みを取り入れる。

## 行政

- ① 多世代が自然と交流できる場所として、高齢者施設と保育園の一体的な運営に対する支援を行うことを検討する。
- ② 東大阪市の良いところや制度をまとめた冊子を大学やホテルで配り、住みたいと思う人を増やす。
- ③ 企業のキャラクター等を使って、「あいさつって大事だね」と伝えるキャンペーンを行う。
- ④ 地域活動に参加したらポイントがもらえるなど、ボランティアをしたくなる仕組みをつくる。
- ⑤ あいさつ運動をする人が不審者と思われないよう、「怪しくない証明」（公式のステッカーや飴等）を支給する。その際に、制度の悪用リスクにも注意を払う。

## 7. 道路整備、交通安全対策、医療体制の充実や、インターネットや性のリテラシーを高める研修の実施など、安心して暮らせる生活基盤を整える

会議では、夜道が暗い、道路がガタガタ、急病時の受入が不十分など、日々の暮らしの中での不安な声が多く出た。子どもや若者、子育て世代が安心して生活できる基盤の整備は、誰もが暮らしやすいまちづくりに繋がる。暗い夜道を減らす街灯のLED化や危険な歩道の整備を徹底し、犯罪や事故への不安を物理的に取り除く。救急医療体制の連携強化や相談窓口の周知を徹底し、ハード面の整備を行う。併せて、インターネットの誤情報や性被害から身を守るためのリテラシーを高める研修を実施するなど、子どもから高齢者まで市民の命と生活を確実に守る環境を築いていくことをめざす。

### 「提案7」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 自宅やお店の前の電気をつけて、夜道を明るく照らすお手伝いをする。
- ② 道路の危険箇所について行政に報告する。
- ③ いざという時に慌てないよう、救急相談ダイヤルや近くの病院の特徴を普段から調べておく。
- ④ 夜間や休日の急病に備えて、かかりつけ医やお薬手帳の情報を整理しておく。
- ⑤ ネットの情報を丸呑みせず、「これ本当かな？」と親子で話し合う。
- ⑥ ネット上で人の悪口を書かない。
- ⑦ 年齢に関わらず性に向き合い学ぶ機会をつくる（性の話がタブー視され、正しい情報に触れる場がないため）。

#### 地域

- ① 地域全体で防犯灯を増やしたり管理したりして、工場地帯や公園等の暗がりをなくす。
- ② 地域としてライトアップやイルミネーションを行ったり、そのような家を応援したりして、防犯とまちの魅力向上を両立させる。
- ③ 暗くて危ない道が分かる地域マップをつくる。
- ④ 子どもの見守りや防犯パトロールを強化し、不審者がいたらすぐ気づけるようにする。
- ⑤ 時間外でも診てくれる病院リストや救急相談窓口を地域で共有して、安心

につなげる。

## 行政

- ① 暗い場所や白線が消えかかっている危険な道路を調査し、街灯を LED にしたり歩道を整備したりする（子どもが事件に巻き込まれないようにする）。
- ② イルミネーション等を増やして、夜でも明るくキラキラしたまちにする。
- ③ 市内の道路状況について、住民がどう感じているかアンケート調査をする。
- ④ 救急車の「たらい回し」がないよう、病院の体制を整えたり、電話相談センターを充実させたりする。
- ⑤ 危険な場所や不審者情報や救急医療情報等を、SNS 等も使って分かりやすく発信する。
- ⑥ 学校の古い校舎の改修や、和式トイレの洋式化を進め、子どもが快適に過ごせる環境にする。
- ⑦ 乗り合いタクシー（ライドシェア）の導入・管理を検討する。
- ⑧ スマホの操作だけでなく、情報の裏側を読み解く「メディアリテラシー教育」を徹底する。
- ⑨ 悪質サイトや誹謗中傷から子どもを守るためのルール（条例）を検討したり、相談窓口を知らせたりする。

## その他

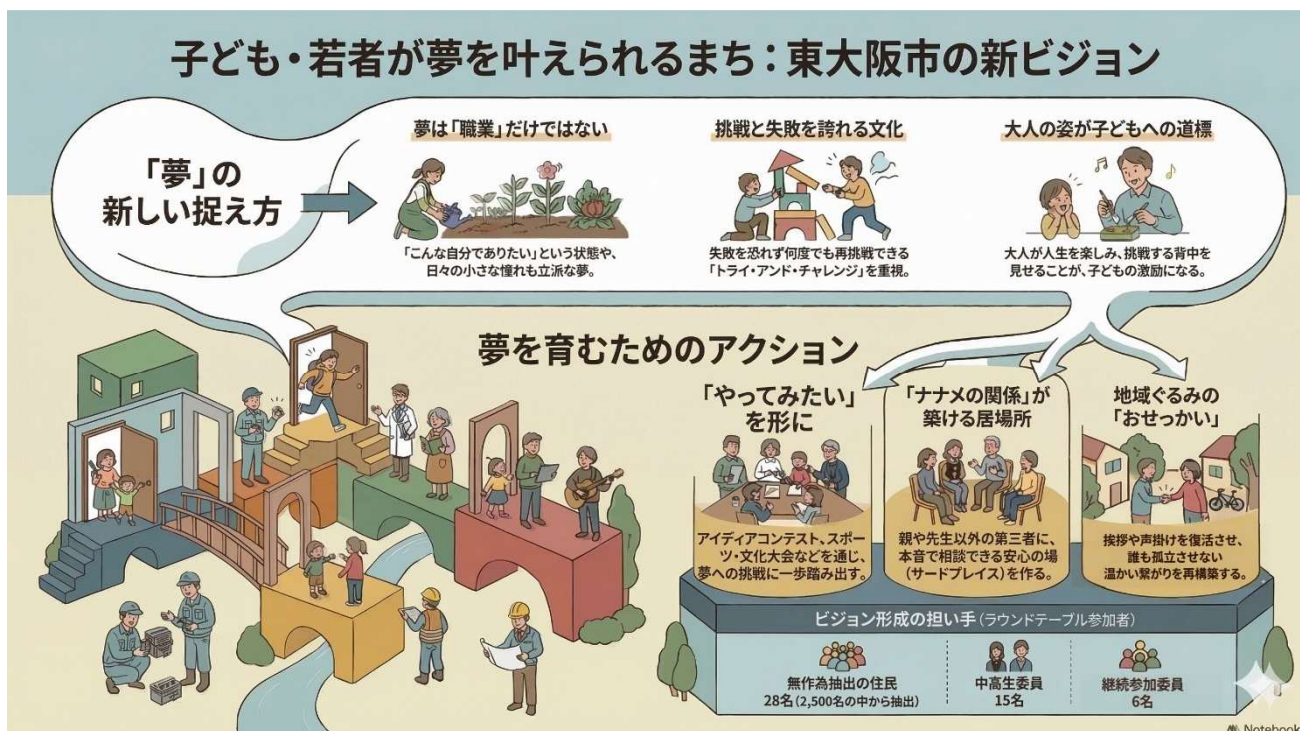
- ① 企業は、工場や会社の夜間照明をつけておき、地域の防犯に協力する。
- ② 商工会議所等が「まちを明るくしてくれた賞」のような表彰制度をつくる。

○特定の提案項目には収まらない、その他の意見

- ・ ふるさと納税の返礼品を魅力的なもの（例：まち工場で製造したねじで作られた家具等）にして、市の魅力を伝えつつ財源を確保する。
- ・ 大学や不動産業者のつながりで、市内にて暮らす学生に卒業後も住み続けたいと思ってもらえるような魅力をアピールする。
- ・ 東大阪市の魅力的な取組があまり知られていないため、もっと PR すべき。
- ・ まち（東大阪市）が子どもたちの力を必要としているということを、子どもたち本人に伝えることが必要である。
- ・ 初の女性首相が誕生する中、世論や社会意識が変わってきている。新しい価値観が生まれているので、東大阪市も明るい未来になってほしい。
- ・ 子どもや若者の夢や疑問、悩みに対する次のステップや答え探しは、AI による効率的な方法だけでなく、伴走する人の存在が不可欠である。
- ・ 行政はすべてを実施するのではなく、プラットフォーム作りや情報提供に注力する。
- ・ 夢というテーマに留まらず、若者の雇用や職場環境等、より根本的な課題についても議論する場を継続する。

## ○インフォグラフィック

今回のラウンドテーブルでは、試行的にAIが導入されました。議論をリアルタイムで要約したものをスクリーンに映し、いま何のテーマで話がされているのかが見えるようになっていたり、議論の内容を絵で可視化して初めて見た人にもわかりやすくイメージされる取組がありました。

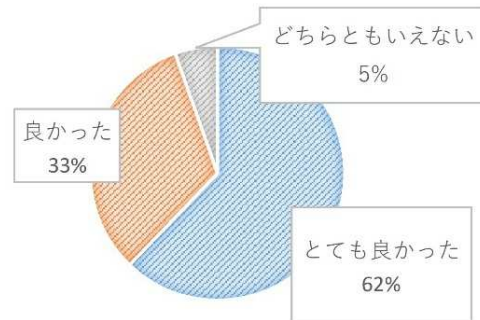


## **4. 付録委員アンケート結果（抜粋）**



1.会議に参加してみていかがでしたか？

	件数	割合
とても良かった	23	62%
良かった	12	33%
どちらともいえない	2	5%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	38	100%

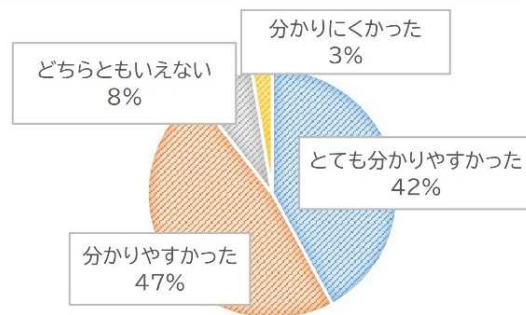


理由(抜粋)

- 様々な立場の人の意見を聞く場が貴重で勉強になるからです。
- 「子どもたち」をテーマにしており、とても良かった。
- 自分の困り事、意見を聞いてもらえて感動しました。

2.自分ごと化会議についての説明は、分かりやすかったですか？

	件数	割合
とても分かりやすかった	16	42%
分かりやすかった	18	47%
どちらともいえない	3	8%
分かりにくかった	1	3%
とても分かりにくかった	0	0%
合計	38	100%

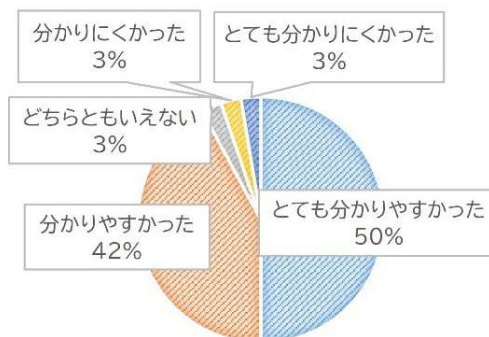


理由(抜粋)

- スライドと別で手元にも資料があり読みながら説明が聞けてわかりやすかったです。
- 丁寧に説明してくださいました。
- スライドが見やすく、全体像が掴みやすかったため。

3.担当課からの説明は、分かりやすかったですか？

	件数	割合
とても分かりやすかった	19	50%
分かりやすかった	16	42%
どちらともいえない	1	3%
分かりにくかった	1	3%
とても分かりにくかった	1	3%
合計	38	100%

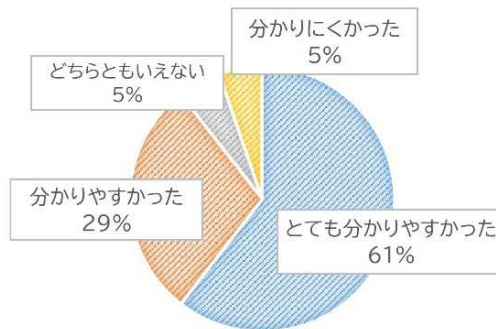


理由(抜粋)

- 中高生にもわかる範囲の説明でわかりやすかったです。
- 必要なところを端的に説明されていた。
- 現状を資料と併にする説明でわかりやすかった。

#### 4.コーディネーターの進行やまとめ方は、わかりやすかったですか？

	件数	割合
とても分かりやすかった	23	61%
分かりやすかった	11	29%
どちらともいえない	2	5%
分かりにくかった	2	5%
とても分かりにくかった	0	0%
合計	38	100%

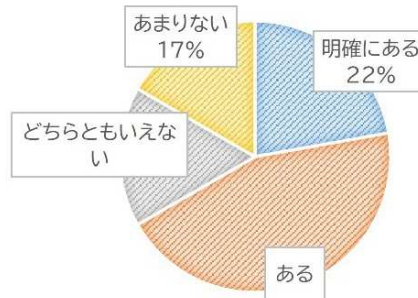


理由(抜粋)

- 堅苦しい会議ではなく参加しやすい雰囲気を作って下さいました。
- 話をしっかりまとめていただいて、他の人の意見も聞けて非常に良かった。
- タイムスケジュールもきちんとされて、部分的には要約しても、わかりやすく良かったです。

#### 5.あなたは今、夢がありますか？

	件数	割合
明確にある	8	22%
ある	16	44%
どちらともいえない	6	17%
あまりない	6	17%
ない	0	0%
合計	36	100%



理由(抜粋)

- 海外とのつながりを増やして、自分自身海外に滞在したい。
- 医療ソーシャルワーカーの仕事をしているので、身寄りのない支援者不在の人たちへの支援を地域の病院と話し合っています。地域内のすべての病院で支援マニュアルをつくるのが夢です。
- 仕事のキャリアを生かしてもっと多くの人、困っている人の助けになればと思っています。
- 健康で毎日幸せな気持ちで過ごせるように。

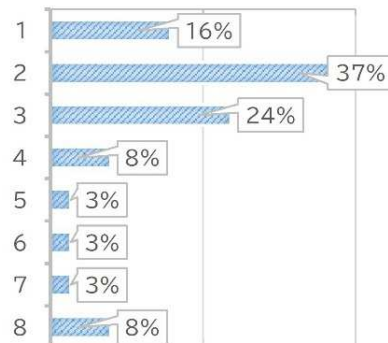
#### 6.「明確にある」または「ある」と回答した方にお尋ねします。その夢に向かって何か取り組んでいることはありますか？

(抜粋)

- 民泊を立ち上げた。
- 他病院のソーシャルワーカーと話し合い・学会への参加をしています。ただ、ソーシャルワーカーとしては頑張れるのに、市民としては何をすべきかわからなくなります。
- 自主的に学んでいる。
- ウォーキング・ストレッチ等を時々している。前向きに考えるようにしている。

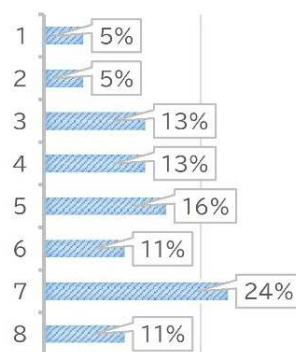
**7.「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」に関する内容として興味があるのは、以下のうちどれですか？(上位1つ目)**

	件数	割合
1. 子ども・若者の権利の尊重	6	16%
2. 子ども・若者の健全な成長を後押し	14	37%
3. 子ども・若者の居場所づくり	9	24%
4. 多様な社会への対応	3	8%
5. 困難をかえる当事者への支援	1	3%
6. 大切な人との未来を創る（結婚を希望する方々への支援）	1	3%
7. 未来へつなぐサポート（妊娠前から出産・子育てに至るまでの切れ目ない支援）	1	3%
8. 次世代への投資を中心とした経済的支援	3	8%
合計	38	100%



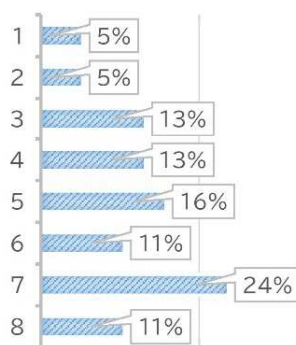
**(上位2つ目)**

	件数	割合
1. 子ども・若者の権利の尊重	2	5%
2. 子ども・若者の健全な成長を後押し	2	5%
3. 子ども・若者の居場所づくり	5	13%
4. 多様な社会への対応	5	13%
5. 困難をかえる当事者への支援	6	16%
6. 大切な人との未来を創る（結婚を希望する方々への支援）	4	11%
7. 未来へつなぐサポート（妊娠前から出産・子育てに至るまでの切れ目ない支援）	9	24%
8. 次世代への投資を中心とした経済的支援	4	11%
合計	37	97%



**(上位3つ目)**

	件数	割合
1. 子ども・若者の権利の尊重	6	17%
2. 子ども・若者の健全な成長を後押し	5	14%
3. 子ども・若者の居場所づくり	4	11%
4. 多様な社会への対応	5	14%
5. 困難をかえる当事者への支援	0	0%
6. 大切な人との未来を創る（結婚を希望する方々への支援）	3	8%
7. 未来へつなぐサポート（妊娠前から出産・子育てに至るまでの切れ目ない支援）	3	8%
8. 次世代への投資を中心とした経済的支援	8	22%
合計	34	94%



**8. 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。**

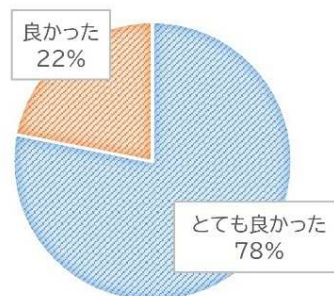
(抜粋)

- 夢について、授業で考える子どもの意見だけでなく、大人の意見、親目線の意見も聞けたこと。
- AIの活用はおもしろい取組だと思います。チャレンジ的な実施に参加できるのは面白いです。
- 次回は前向きな議題についても話し合いたい。「夢を叶えられるまちづくり」なので、若者がチャレンジしやすいまちづくりについて話が出来たらよい。
- 今日は様々な意見を交流することが出来て良かったです。次回はより本格的に取り組みたいと思いました。



1.会議に参加してみてもいかがでしたか？

感想	件数	割合
とても良かった	25	78%
良かった	7	22%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	32	100%

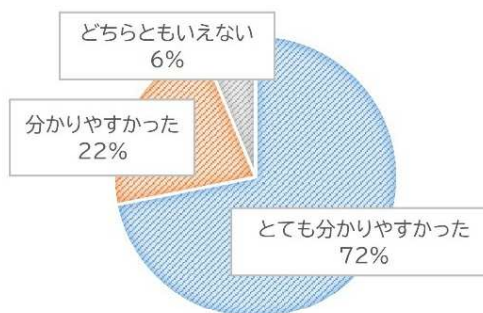


理由(抜粋)

- 世代を超えて話すことができたから。前回と違い、話し合いをする時間を長く取れたから。
- 参加者が自身の想い・考えを発言しやすい雰囲気なのがとても良かったです。そして、参加者が他の参加者へ直接意見を求めるなどといった場面もあり、そういった点からも場の温かさを感じました。
- 当たり前ですが、夢は年齢に問わず誰しもが持っている良いものなのだと分かったから。

2.コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか？

	件数	割合
とても良かった	23	72%
良かった	7	22%
どちらともいえない	2	6%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	32	100%



理由(抜粋)

- 参加者への意見を求め方、投げかけ、発言時の態度や発言後のフィードバックが、参加者の主体性を引き出していたように感じました。
- 色んな問いかけをしてくれて私自身もどういう意見で返すかしっかり考えることが出来たから。
- 班それぞれにしっかりとしたリフレクションがされていた。たとえ話で分かりやすく伝えられていた。

3.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

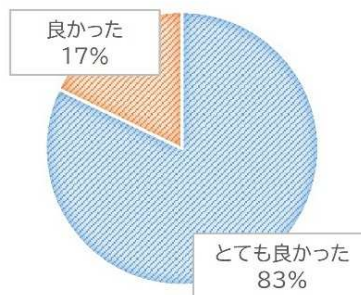
(抜粋)

- 「夢を持つこと」はとてもステキなことだと思います。しかし、本当にやりたい事は、なかなか見つけられないものだと思います。子どもたち(大人も含めてでしょうか)が、「夢が見つけれないこと」に焦りを感じるような風潮での計画づくりにはなってほしくないな、と思いました。今日は様々な意見が聞けて良かったです。
- 「夢を叶える」とは何か、自問自答しています。
- 今回は足立区の不登校に対する内容を詳しくお聞かせいただきましたが、合わせて東大阪市の不登校の現状ももっと知りたいと感じました。次回も話す内容とあわせて東大阪の現状も知れたらリアルな課題も見つけやすくなるんじゃないかと感じました。



1.会議に参加してみていかがでしたか？

感想	件数	割合
とても良かった	24	83%
良かった	5	17%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	29	100%

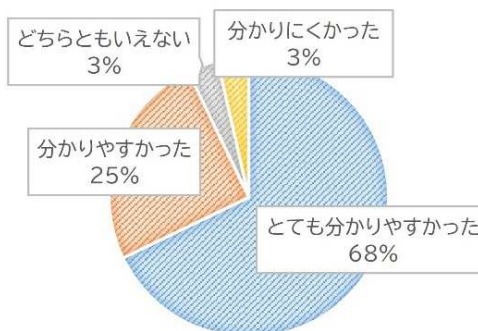


理由(抜粋)

- 第1回第2回第3回と回を重ねるごとに抽象的だったものが具体的に見えそうになってきている。次回が最終回だが、私たちが何を提言でき、また今回以後もその意識を持って生活していけるようになりたいと思うことができたから。
- 前は出てこなかった意見を様々な視点から話し合えたため。
- それぞれの夢や、それに関連する様々な取組や案を知れて良かったです。

2.コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか？

	件数	割合
とても分かりやすかった	19	68%
分かりやすかった	7	25%
どちらともいえない	1	3%
分かりにくかった	1	3%
とても分かりにくかった	0	0%
合計	28	100%



理由(抜粋)

- 皆様の意見をまんべんなく聞き出し、タイムスケジュールもきっちりされていました。
- 全員から話を聞けるようにして下さり、皆さんの話が聞けて良かったです。子供や若者と大人のコミュニケーションを作って下さっている感じ。
- 抽象的な意見等を綺麗にわかりやすくまとめてくださり、より議論を深めることができたから。

3.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

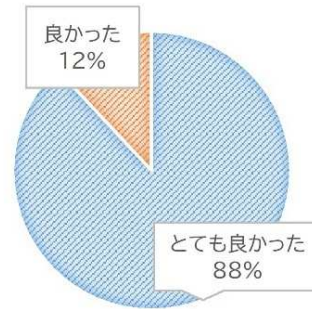
(抜粋)

- 皆さん自分ごととしてよく考えていらっしゃるって、自分ももっと頑張らなければと思いました。
- 子どもたちの考えを言語化するって難しいなと思いました。考えながら話す子どもや若者たちの言葉を上手に掘り下げられていて、学ばせてもらいました。何かの政策を生み出す目的ではなく、参加している子供や若者たちの思いを形にして、大人たちが行動に繋げていくような最終回になれば良いなと思います。
- 今日感じたのは自分から行動をしていくことや、自分の夢などを明確に持ちそれから動いていくことが大切だと思いました。自分の夢がある場合は自分から行動して調べたりすることが本当に今の社会大切だと改めて感じました。私は海外で将来活躍したいと思っているので自分で色々なことを調べたり、今世界で起こっている戦争紛争やテロを調べたりして少しでもわかろうとしたりしているので中高生のこれからの社会は国際社会に向けて動いていると感じました。



1.会議に参加してみていかがでしたか？

	件数	割合
とても良かった	22	88%
良かった	3	12%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	25	100%

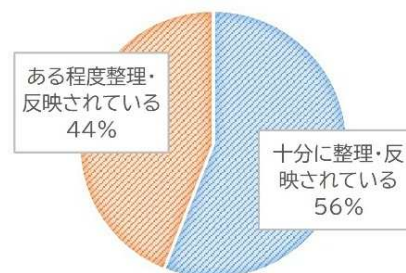


理由(抜粋)

- 身内以外の若者世代の意見を聞き、議論する機会を与えて頂いた事、あまり興味のなかった行政の取り組みを体験出来たことは、凄く有意義な時間を共に過ごせました。
- 価値観が変わった、意見交流が良い経験となった。
- 4回目にこの会議の意義がよくわかりました。回数を重ねないと最後の意見交換にはならなかったと思いました。

2.提案書素案は、これまでの議論の内容が適切に整理・反映されていると感じましたか？

	件数	割合
十分に整理・反映されている	14	56%
ある程度整理・反映されている	11	44%
あまり整理・反映されていない	0	0%
全く整理・反映されていない	0	0%
合計	25	100%

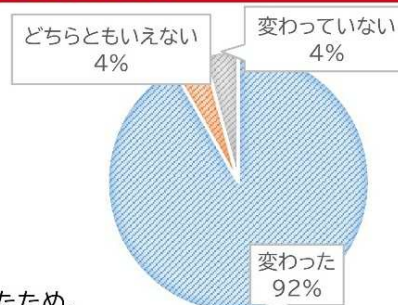


理由(抜粋)

- 重要なことや多少細かな意見もまとめてあり、しっかりと反映されていると感じた。
- 自分の意見が反映されていて、うれしく思います。
- すべてまとまっていて整理されていた。

3.会議に参加したことで、「意識や行動」に変化はありましたか？

	件数	割合
変わった	23	92%
どちらともいえない	1	4%
変わっていない	1	4%
合計	25	100%



理由(抜粋)

- 東大阪の一市民としての自覚が持てるようになったため。
- 行政の発信している情報を取り込む回数が増えた。若者達の意見、夢を叶えるお手伝いをしたくなりました。
- 市の発信によりアンテナを張ろうと思うことができました。

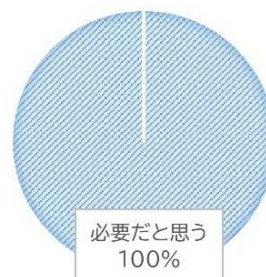
#### 4.あなたにとって今回のテーマにおける「自分ごと化」はどのようなことでしょうか？

(抜粋)

- 個人的に、日常生活で地域の人と関わる機会がほとんどないため、会議に参加したことで、東大阪市民であることを自分ごと化できたように思う。
- 大人が子どもの夢を潰さない、大人の価値観を押しつけないということを、強く考えさせられる会議であったと感じている。子ども、若者もしっかりしている。困った時のサポートだけ大人がしてあげれば未来は明るい。
- 人々が住みやすい、生活しやすい、安心安全なまちづくり。老若男女、障害者、全員が助け合える楽しいまちづくり。

#### 5.今回のように、無作為抽出の手法を使って議論するやり方についてどう思いますか？

	件数	割合
必要だと思う	24	100%
どちらともいえない	0	0%
必要だと思わない	0	0%
合計	24	100%

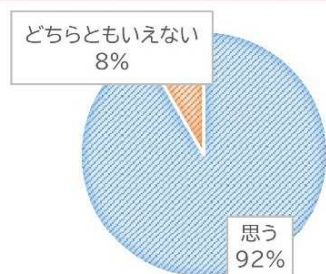


理由(抜粋)

- 年齢層、性別、職業など色々な人の話を聞ける。また、このような会議こそが、一つ一つの題材を自分ごと化できる会議形態だと思う。
- 幅広い年齢層だからこそ意見が異なって多くを知れるから。
- とても良いやり方だと思う。当たってうれしいです。

#### 6.今後、住民同士でまちの課題について議論・意見交換ができる場があれば参加したいと 思いますか？

	件数	割合
思う	22	92%
どちらともいえない	2	8%
思わない	0	0%
合計	24	100%

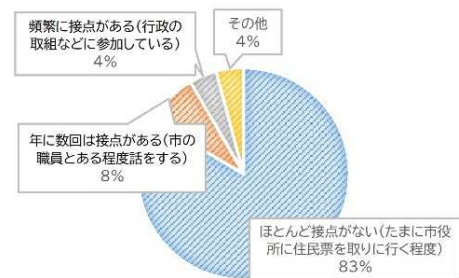


理由(抜粋)

- 今回のような活気のある意見交換ができる場所があると知り、是非とも参加させていたいただきたいと思います。
- みんなで真剣に話をすることによって、一步一步前進できるから。
- 良い思い出になるし、会議が終わった後でも、常に普段の生活に良い刺激になるから。

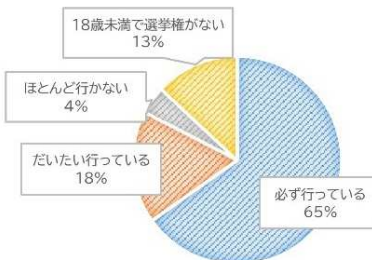
### 7.これまで行政とどの程度の接点がありましたか？

	件数	割合
ほとんど接点がない(たまに市役所に住民票を取りに行く程度)	20	83%
年に数回は接点がある(市の職員とある程度話をする)	2	8%
頻繁に接点がある(行政の取組などに参加している)	1	4%
その他	1	4%
合計	24	100%



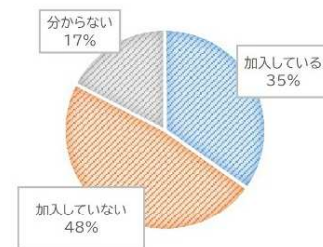
### 8.選挙の投票にはどの程度行っていますか？

	件数	割合
必ず行っている	15	65%
だいたい行っている	4	17%
ほとんど行かない	1	4%
行ったことがない	0	0%
18歳未満で選挙権がない	3	13%
合計	23	100%



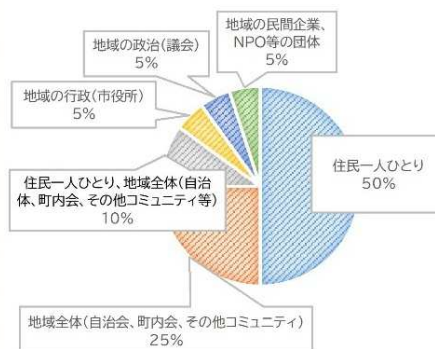
### 9.地域の自治会には参加していますか？

	件数	割合
加入している	8	35%
加入していない	11	48%
分からない	4	17%
合計	23	100%



### 10.地域の自治会には参加していますか？

	件数	割合
住民一人ひとり	10	50%
地域全体(自治体、町内会、その他コミュニティ等)	5	25%
住民一人ひとり、地域全体(自治体、町内会、その他コミュニティ等)	2	10%
地域の行政(市役所)	1	5%
地域の政治(議会)	1	5%
地域の民間企業、NPO等の団体	1	5%
合計	20	100%



## 11.その他、ご意見や感想等がございましたら、ご記入ください。

(抜粋)

- 明るい地域になり犯罪が減るようになったら良い。
- 今日の4回目の会議を通して、考え方や価値観が変わりとても良かったです。
- 無関心寄りだった自分が(QUOカード目当てに)興味関心を持って市の取組、市民の生活や未来について考える機会をいただきました。ありがとうございました。